

あいち暮らしっく

2014年
No.109

若者向け特集号

キミの行動が社会を変える

社会、経済、環境への影響力を理解し、
積極的に行動できる「消費者市民」をめざそう！

「買い物」、それは私たちに最も身近で社会に影響を与える消費行動です。
「買い物」は、お金を支払って行う「投票」であり、より良い商品・サービスを選択することが、
その企業や提供者を応援することにつながります。
さらには、環境にやさしい商品を選択することなどにより、社会貢献につなげることもできます。
「消費」が持つこうした「力」を自覚して、地域や社会に貢献できる「消費者市民」をめざしましょう！



目次

■ 消費者市民って？	2	■ 情報社会のルールや情報モラルについて学ぼう！	7
■ 消費者の「権利」と「責任」	3	■ 消費者教育・啓発用映像教材貸出のご案内	8
■ どんなトラブルがあるんだろう？	4	■ 「あいち暮らしWEB」を活用しよう！	8
▶ ワンクリック請求、サクラサイト	4	■ 消費者教育ポータルサイトのご案内	8
▶ キャッチセールス、マルチ商法	5	■ 消費生活相談窓口のご案内	8
■ 契約について学ぼう！	6		

➡ 「消費者市民」って、どんな消費者でしょうか？ 次のページから、「消費者市民」について考えてみましょう！

消費者市民って？

例えば...



あなたならこんなとき、どうしますか？

- ① 注文とは異なるものの、商品は送られてきた。めんどくさいし、しかたがないので、あきらめる。



- ② 注文と違う商品が送られてきたなんて、納得できない! 買ったお店に問い合わせる!



不正な取引、被害が減らない!

このままあきらめて泣き寝入りしてしまったら、事業者は注文と異なる商品を送ってしまったことに気づかないかもしれません。改善策がとられることもなく、他の購入者がまた同じトラブルにあうかもしれません。また、もしその事業者が悪質な業者だった場合、取り締まられることもなく、不正な取引や被害が拡大してしまうかも!?

再発を防止、被害を縮小!

買ったお店や製造元など、**事業者にお問い合わせたり、国や地方自治体が設置する消費生活相談窓口**に相談したりすることにより、原因究明や製品改良、他の消費者への注意喚起等が行われ、再発防止策がとられます。結果として、**消費者被害が減少し、公正な取引を行う健全な事業者や、質の良い商品・サービスが増える**こととなり、社会全体がより良くなっていきます。

消費者一人ひとりが、自らの消費行動を通じて、社会全体の改善や発展に積極的に参加していく社会を「消費者市民社会」といいます。消費者としての権利と責任を消費者一人ひとりが自覚し、積極的に行動することで、社会・経済・環境などを変え、より良い社会をつくりあげていくことができるのです!

「消費者市民社会」に向けた取組の例として、他にも次のようなものがあります。

- 社会や環境に配慮した商品を購入する (例)
 - 地元で生産された商品(地産地消)
 - 詰替え用や簡易包装商品、リサイクル品などのエコ商品
 - フェアトレード(※)商品
※発展途上国の生産物を適正な価格で購入し、生産者の生活を支援する取組。
- 買い物の際はエコバッグを利用する
- 食材は適量を購入し、賞味期限や消費期限について正しく理解して食材を無駄にしない など

➡ 私たちの消費行動には、社会を良くしていく力があるということがわかりましたね! では、消費者の「権利」と「責任」って何でしょう? 次のページで見ていきましょう!

消費者の「権利」と「責任」

正しい知識をもち適切な行動ができる「消費者市民」になることは、安全・安心な社会をつくることにつながります。消費者の「権利」と「責任」を正しく理解しましょう。



消費者の8つの権利とつながりが深い事例を、線で結んでみましょう。

① 基本的な需要が満たされる権利	ア 予算の範囲内で、さまざまな商品から自由に選ぶことができる。
② 健全な生活環境が確保される権利	イ 学校や家庭、地域などで、契約の仕組みや消費者被害、インターネット利用上の注意点などについて学ぶことができる。
③ 安全が確保される権利	ウ 消費者被害にあったとき、地方自治体等が設置している消費生活相談窓口で相談することができる。
④ 自主的かつ合理的な選択の機会が確保される権利	エ 公園の遊具の使用に危険性があったので地方自治体に連絡したら、安全なものに改善された。
⑤ 必要な情報が提供される権利	オ 消費者が商品の購入時に正しく判断できるよう、ネットショップには返品特約等を明確に広告する義務がある。
⑥ 消費者教育の機会が提供される権利	カ カラーコンタクトは、使用者の安全確保のため、「高度医療機器」として薬事法に基づく販売規制が行われなければならない。
⑦ 意見が政策に反映される権利	キ 衣食住など、生活に必要な商品・サービスを購入することができる。
⑧ 被害を適切かつ迅速に救済される権利	ク 健全な生活環境の中で働き、生活することができる。

消費者の5つの責任とつながりが深い事例を、線で結んでみましょう。

① 商品や価格などの情報に疑問をもつ責任	ア チョコレートやコーヒーなどを買うときは、フェアトレード商品を選ぶようにしている。
② 公正な取引が実現されるよう主張し、行動する責任	イ 渋滞解消のため、電車やバスを使って外出することにした。
③ 社会的関心を持ち、他者・弱者への影響を自覚する責任	ウ ブランド品があまりにも安く売られていたので、偽物ではないかと思い、購入しなかった。
④ 消費行動が環境に及ぼす影響を理解する責任	エ 消費者トラブルを防ぐため、消費者同士が適切な情報交換を行っているSNSに登録した。
⑤ 消費者として団結し、連帯する責任	オ スーパーで購入した弁当に卵の殻が入っていたので、抗議の電話をした。

安くてお買い得な商品を買うことだけが、かشこい消費行動ではありません。消費者が自分の「権利」と「責任」をしっかり理解し、商品の品質や表示を確認したり、環境や社会にやさしい商品を選択したりすることで、より良い商品を作る事業者が増えていきます。私たちの毎日の「消費」が社会に大きな影響を与えることを自覚して行動しましょう！



答え
 エ-⑨、レ-⑦、ㇿ-⑧、ㇿ-②、ㇿ-① 「丑算のC9の昇算景」
 ㇿ-⑧、エ-②、レ-⑨、ㇿ-⑨、ㇿ-⑦、ㇿ-⑧、ㇿ-②、キ-① 「陸黙のC8の昇算景」

みなさんも消費者の「権利」と「責任」を理解して行動できる「消費者市民」をめざしてくださいね！
 でも、実際には若者をねらったいろいろな消費者トラブルが…。
 次のページで、若者に多いトラブル事例を見てみましょう！